

# 私の学級づくり



大阪府立泉南支援学校  
辻内

# 5ねん1くみの 子どもたち



学年は2クラス  
(合計：児童12人教員5名)

- 5年間の積み重ねの中で
- ・ 身辺自立がほぼできている。
  - ・ いろいろなものに興味・関心を持ち、学習に取り組もうとすることができる。

- ・ **学習課題がわかれば、自主的に取り組める。**

**しかし、**

- ・ **一方で、当然一人ひとりに課題はある。**

詳細については、当日の報告の中で

# 子どもたちにもう育てたいのか

- ・自分の気持ちをしっかり意思表示できる子に(特に「NO」)
- ・友だちの声をしっかり受け入れる力を(多様性の受容)
- ・興味、関心を広げ、楽しむ力を(型破いなあそびOK)



# そのための手立て1(一人ひとりに対し)

- こどもの声を教師が整理し、他の児童に伝える。
- こども同士の思いがつながるよう、折り合いポイントを示す。
- できているときをほめる。(ほめて伸ばす)
- 自己肯定感を高められるよう。成功体験を蓄積する。  
(日々の活動や、授業の中で)

# そのための手立て2(集団としての活動)

- くじ引きでの席がえ
- クラスの係を決める。
- 掃除を昼休みの活動に
- 子どもたちが楽しめる物を、教室にセット（環境を整える）。
- 昼休みは思いっきり遊ぶ。
- 子どもたち同士が関われる場を設定  
(設定あそび、歯磨き話し合い)

# こどもたちをつないだ「おすしのジェンガ」

まず、Kくんには、落ち着いてクールダウンできる場（電子オルガン）と、友だちとうまく関われない困り感に共感し（問題行動を怒らずに）環境を整える。

一方、Nくんには、何か起こるたびに、解決方法を一緒に考え、解決しながら、社会性の高まりを期待した。

給食を早く食べ終わる児童が多く、昼休みはけっこうゆったりできるクラスの貴重な時間。そこで、余暇を主体的に楽しんだり、友だちと遊べる時間を確保し、いくつかのおもちゃをさりげなく、クラスに置いておいた。

# 自己主張をしあう「給食後の歯磨き」

食後に一つの机に集まって、友だちとの交流が進む。

日課の歯磨きの順番も子どもたちに決めてもらうことにした。

「食べた順」「じゃんけん」（まあ、どっちでもいいのだが）、相手の考えを受け入れるところが大事。

いつも食べるのが遅いNくんが、ジャンケンで大逆転し成功体験につながったり、友だちの発言をまねているだけのKくんが後から「やっぱり、食べた順がよかった」と自分の気持ちを言葉で表現し始めたり、というできごとがあった。

# ルールのあるあそび「ゴロ卓球」

○一人ひとりが好きなあそびをする。



○同じ場で別の遊びをする。



○道具を共有して遊ぶ。

ところまで来たので、ルールのあるあそびに挑戦。

少しずつですが、「**しっかり自分の意見を伝える**」、  
「**相手の意見を受け止める**」ことができていると感  
じます。何より、一緒にいることを、ともに楽しみ、  
たまには、喧嘩もするけれど、落ち着いたら「**ごめ  
んね**」と言い合える関係になってきています。

お互いが「**いい手本**」を示し合える関係になってき  
ました。

くんも自分のこだわりがありつつ、みんなの動きに  
合わせ、行動することができています。

おわり